

笠石

このやや珍しい形の岩は、まるで平たいつばつきの竹の笠が柱に載っているように見えます。伝説によると、高野山の開祖である空海という僧（諡号 弘法大師、774-835）が山を登っているとき、笠が風で飛んでここに着地したということです。

柱のてっぺん近くには、小さな阿弥陀如来（無限の光明と寿命を持つ仏）の姿と柱が南北朝時代（1336-1392）のものであることを示す銘が刻まれています。おそらくこの石柱は、もとは木でできていた柱を置き換えたものです。

笠石は三谷坂の主要な見どころのひとつです。三谷坂は近くの分岐点で右方向に続きます。